

スーパーロング施用による 半促成トマトの長期穫り栽培について

JAあすなろ トマト部会

ちから

部 会 長 桑 田

税

(概 況)

当農協管内は、青森市の中心部から西側に位置する都市型農業地帯です。

年平均気温10.8℃，年間日照時間1,620時間，年間降水量1,232mmとなっており，北部の海岸地帯では6月から7月にかけてのオホーツク海高気圧がもたらす偏東風（ヤマセ）の影響を受けやすい。また，土地は湿田，半湿田が大半を占めていますが，かなりの区域が土地改良事業の完工により改善されています。当地区から市の行政・商業中心部まで20～30分です。又東北自動車道青森ICにも20分位と近く，東西に走る国道7号バイパス及び国道7号から北側に伸びる国道280号バイパスと交通体系に恵まれています。



(作 型)

半促成トマト，夏秋トマト，抑制トマトの3作

型を30a栽培しています。

3作型にスーパーロングの100日タイプを使用しています。特に半促成トマト栽培は，この地域で限られた期間での長期穫りを目ざしております。

本 号 の 内 容

§ スーパーロング施用による 半促成トマトの長期穫り栽培について.....	1
	JAあすなろ トマト部会 部 会 長 桑 田 ちから 税
§ 北海道における冷害と施肥.....	4
	前 ホクレン農業協同組合連合会 (JAグループ) 管理本部 役員室 農学博士 関 矢 信一郎
§ 富山の治水に貢献した蘭人技師 (ムルデルとデ・レイケ)	9
(二) ヨハネス・デ・レイケと常願寺川治水 —その2—	
	富山県郷土史会常任理事 デ・レイケ研究会員 前 田 英 雄

半促成トマトの播種は3月10日、品種は、品質の良い桃太郎エイトが主流ですが、抑制トマトには、ヨークを取り入れています。



桃太郎系は、四段以降どうしても樹勢が低下しやすいので、従来の肥料では後半まで樹勢を維持できませんでした。そこで、2年前より100日タイプのスーパーロングを使用しています。施肥量は10a当りN成分で20kgとし、内訳は、スーパーロングを全面に10kg、ロングショウカルとCDU化成(15-15-15)を5kgずつを溝施肥とし、後半の樹勢を維持したいためにあえて2段施肥しています。(CDUは土壌ECにより加減)(ロングショウカルは尻腐れ防止のため)

(栽培方法)

桃太郎エイトを50～55日苗の若苗定植とし、活着後はできるだけ灌水を控えて根をじっくり深く張らせる様に、3段花房着果まで細目に樹勢を維持させています。

そうする事によって葉柄の長さも大きくなり、初期は、すっきりした樹勢になり、一回目の追肥は3段花房の

樹勢を見て的確に追肥するか判断しています。

3段花房が着果している状態でも樹勢が衰える気配がなければ、一回目の追肥は控える様になっています。

5段目開花・着果時点でようやく少し先細りになってきましたので一回目の追肥を生育を揃える意味でS・6・4・6を一株ごとに深さ20cmのところに施しました。

一段目から5段まで着果しているのであとは樹勢を落とさない様に、又5段目以降より気温も高目に推移してきましたので、灌水量を少しずつ増やし一日置きにトミー液肥の300倍を自動灌水しております。

それでも細くなる様であれば、メリットの青を5日に一回の割合で2回程葉面散布し畦の方からは、スーパーノルチッソを施して樹勢を回復させています。

8月中、下旬頃より気温・夜温が低くなってきましたので、灌水の量や、間隔を長くし裂果防止に努め、ハウスの両サイドを閉める様にしています。

9月中旬頃に最終花房より2葉残し芯止め後Ca剤を葉面散布し畦の方からは、液肥を2回程施し最後の灌水としています。

後半の、8段目当たりからでも、樹勢が低下しなかったのは、全面散布もさる事ながらロングの2段施肥の効果があったのではないかと思います。



計画通りの収量でして収穫の打ち切りは、10月一杯、1段1tの収穫で13段の13t穫りで終了しました。

(病害虫防除)

全期間を通してほとんど予防散布を励行し、基本として梅雨前は殺菌剤を主とし、梅雨後は殺虫剤を主としていますが、今年よりマルハナバチを導入し、ハウスの谷間及びサイドにネットを張りめぐらしましたので、タバコガの発生は見られませんでした。スリップス類の対策についてはハウス内に予察効果があると言われている青と黄色のトラップをつり下げたところスリップス類は、ほとんど発生せず、被害も出ませんでした。

特に気をつける点は、圃場の周辺の雑草刈りを徹底して行うことです。

後半に、少々葉カビがいくらか見えましたが、特に慢延する事がなく、葉カビ防除に対しては、

2回程の葉散で抑えました。

基本的には、10日に一回の割合で予防散布に努めています。

(ペーパーポット苗によるスーパーロングの効果について)

72穴のペーパーポットを使用し育苗日数を20～25日位を目安に3.5葉苗を直接定植した場合、活着後初期より過繁茂になりやすい。そこで、スーパーロングを使用したところ、初期の過繁茂を避ける事ができました。4段目から生育に衰えが見えたので、従来通りのS・6・4・6の追肥、また葉面散布剤やスーパーノルチッソで生育の回復や尻腐れ防除に努めました。

まだ使用して2年目なので、来年は、もう少し持続性の長い140日タイプを使用したいと考えております。